



気温がなかなか下がりませんね。通常であれば園庭を駆け回って遊ぶところですが、温度計を確認しながら短めの外遊びをしている状態です。子どもたちは体を動かしたくてウズウズしていますので、室内で体育用具（平均台や巧技台等）を使ってさまざまな遊びに挑戦しています。昨年より心も体もひと回りたくましくなっているので“挑戦”する意欲が高まっています。「ちょっとドキドキするけどやってみよう!」、「〇〇ちゃんはじょうずだな、まけないぞ!」みたいな感じです。すみれ、たんぽぽ、さくら組の子どもたちも動ける範囲が広がり、身体を上手にコントロールできるようになってきました。2歳児さくら組の子どもたちと体育遊びをしました。園長の話聞いてマットの上を歩いたり、一本橋を渡ったり、鉄棒にぶら下がったり、途中で園長と手あそびをすると気持ちを“パツ”と切り替えて反応してくれていました。まだまだ幼いと思っていましたが、子どもたちの成長に驚かされました。



9月の行事予定表

- 3日(水) } 榎原中職場体験
- 4日(木) }
- 13日(土) 園内研究会
- 19日(金) 避難訓練
- 25日(木) 誕生会
- 8日、29日… えいごであそぼう(ばら組)
- 1日、22日… えいごであそぼう(ふじ組)

10月の行事予定表

- 10日(金) 運動会リハーサル
- 17日(金) 運動会準備(17:30から会場設営)
(早めのお迎えにご協力ください)
- 18日(土) 運動会(さくら、もも、ふじ、ばら組)
※すみれ、たんぽぽ組さんは家庭保育にご協力下さい。午後は園内研究会です。
- 21日(火) 避難訓練
- 22日(水) ばら組 高良山登り(ばら組のみお弁当)
- 24日(金) 誕生会
- 20日… えいごであそぼう(ばら組)
- 6日、27日… えいごであそぼう(ふじ組)

「中学生の職場体験」

榎原中から生徒さんが職場体験にやってきます。社会勉強を兼ね、また保育士という仕事のやりがいを感じてもらい、将来の夢につなげてもらえればと思います。



「ひまわりの生長と共に」

ふじ組が育てていた“ひまわり”が大きく育ち終末を迎えようとしています。毎日の水やりから始まり子どもたちの背丈より大きく育ち、それをじっくり観察し、大きな紙に描きました。ふじ組のパワーがあふれる“力作”です。この後は、ひまわりの種を収穫、乾燥させます。子どもたちの思いが詰まった活動でした。



仲間存在

進級して半年を迎えるころになると、「友だちといっしょにあそぶ」、「みんなで力を合わせて」というような行動が増えてきます。“一人では机を運ぶことはできないけど、友だちと力を合わせればできる”ということがわかり、友だちの存在がより大きくなってきます。このような時期を見越して、集団で行動したり力を合わせて活動できるものを準備していきます。その楽しさを感じ取りながら、ある時は課題にぶつかりながら仲間のすばらしさに気づいてもらいたいと考えています。これが後々運動会や生活発表会の活動へとつながっていきます。



「すぐに転んでケガをするのは、何で!?!」

遊んでいて簡単にケガをする子や、すぐに疲れる子、人をよけて走ればよく転ぶ子が増えています。中には、転んだだけで骨折したり、転んだ拍子に咄嗟に手が出なかったため頭を打ったりする子も。日々の運動量の少なさから、基本的動作が身についておらず、ケガをしてしまうことが多いとのこと。最近では、子どもの知的能力を伸ばすことばかり求める傾向にあります。幼年期は、運動することで脳を活性化していきます。体を動かすことが脳を発達させることを忘れないように!

〈対応法〉遊びが運動能力を育てます

大事なことは、スポーツではなく、体を動かすことが楽しい、と思える遊びです。あそぶことで運動の発達が著しく育ち、「おもしろい!」「楽しい!」と興奮することで脳の資質も育ちます。また、友だちとのコミュニケーション力の向上や、認知的な発達にもつながります。一生のうちでもっともいろいろな動きを習得できるのが幼児期です。遊びによって体を動かすことで身のこなしがしなやかになり、瞬発力、判断力などが育ち、自分の体を守れるようになるのです。子どもたちが自分の身を守れるようになっていくことが安全な子育ての一環だということを認識して、子どもと向き合っていきたいものです。

『0歳児から5歳児行動の意味とその対応』今井和子著より

新しい職員が仲間入り

8月26日から、豊田咲子保育士、岩 佑菜保育補助が仲間入りしました。よろしくお願いします。

